

2006年6月29日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
 代表取締役社長兼 CEO 森本昌義
 (コード番号 9783 東証・大証第一部)

25～35歳の若者の仕事や生活の実態は？
 充実感をもって仕事に取り組んでいる若者は
 自分の態度・能力に自信をもっており、それは子ども時代の体験と関連している
 ～「若者の仕事生活実態調査」結果速報～

株式会社ベネッセコーポレーション（代表取締役社長兼 CEO：森本昌義、本社：岡山市、以下ベネッセ）では、2006年1月、25～35歳の男女2,500名を対象に、現在の仕事や生活の様子と小・中学生時代の体験・親子関係についてたずねたwebアンケート調査を実施しましたので結果をご報告します。

子どもに対する家庭教育の重要性が叫ばれている昨今、このような客観的データが家庭教育のあり方を示す一つの材料になれば幸いです。

「若者の仕事生活実態調査」

1. 調査目的

若者の仕事や生活における充実感や自己評価の実態を明らかにするとともに、学校を卒業した後、社会で充実感を感じ自信を持って仕事や生活をするためには、子どもの頃のどんな体験が必要なのか、また教育はどのような役割を果たすべきか、探ることを目的としています。

2. 調査結果

調査結果よりわかった特徴は、以下のようなものです。

充実感をもって仕事に取り組んでいる若者は、就業形態（正規雇用、非正規雇用、自営自由業）に関わらず、一定割合ずつ存在している。（就業形態によって大きな差が出るわけではない。）

仕事において充実感を感じている若者は、「目標設定」「表現」「自己理解」「自己制御」「自主性」など、自分の仕事における態度・能力に自信を持っている。

仕事における態度・能力に対する自信は、子ども時代の体験や親とのかかわりと関連している。

なかでも、子ども（小中学生）時代に「親や学校の先生以外の大人と話をすること」があったと回答した若者ほど、仕事における態度・能力に自信を持っている。

3. 結果より読み取れること

年齢も経験も立場も価値観も異なる多様な大人と接することにより、子どもは、初対面の人でも臆することなく話ができるようになったり、新たな自分の適性や能力を発見したり、将来の目標となるモデルを見つけたりします。そして、子どもの頃の体験から得られた自分の態度・能力に関する自信が、成人してからの仕事生活のさまざまな場面に生かされ、充実感へとつながっていくのだと考えられます。

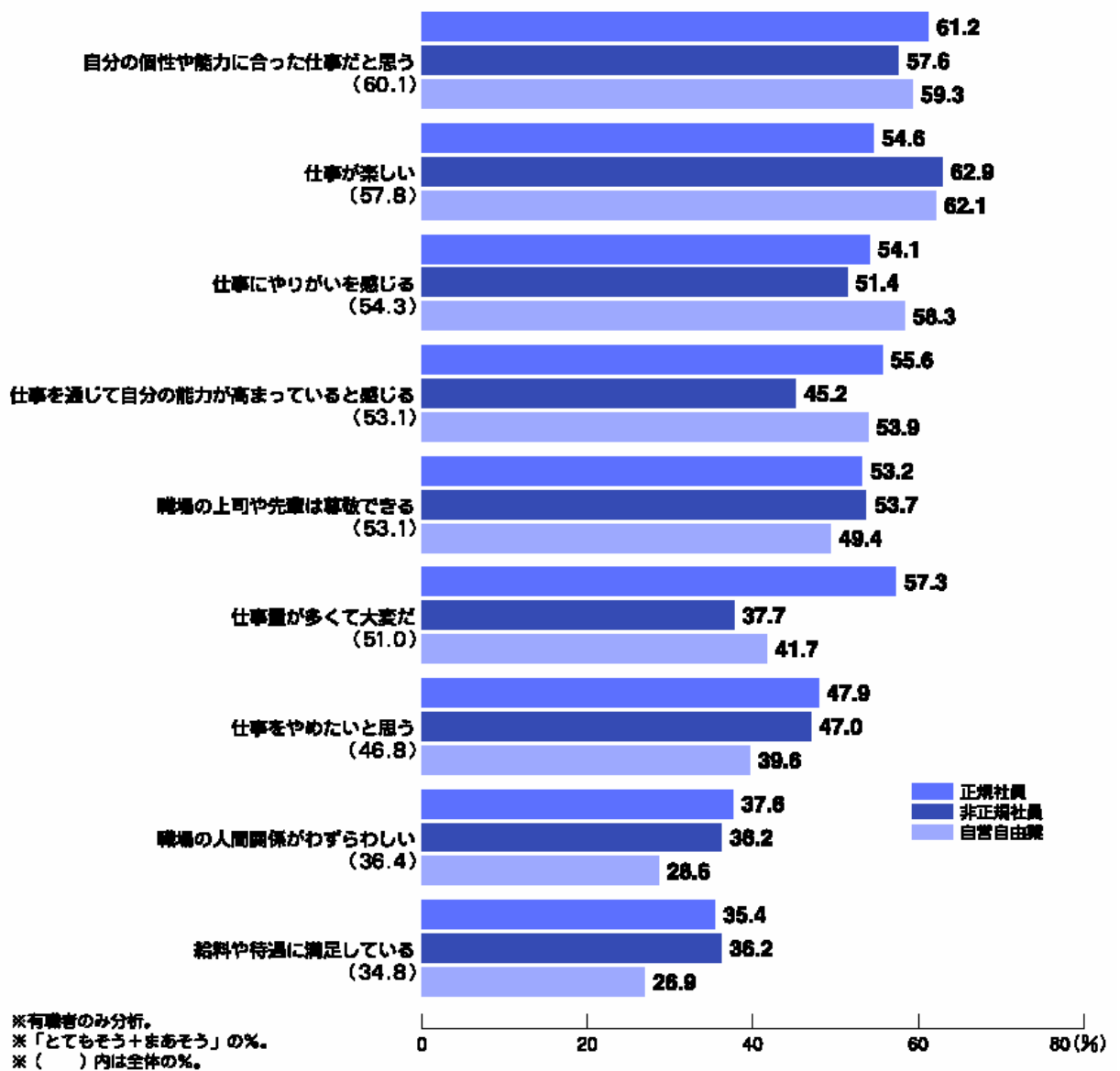
4. 調査概要

時期	2006年1月(webアンケート調査)
対象	25～35歳の男女(ただし、学生を除く)2500人
企画・分析メンバー	矢野眞和(東京大学教授)/小杉礼子(労働政策研究・研修機構統括研究員)/土場学(東京工業大学助教授)/宮城まり子(立正大学教授)/佐藤浩章(愛媛大学助教授)/木村治生(Benesse教育研究開発センター教育調査室長)/岡部悟志(同センター研究員)/朝永昌孝研究員(同センター研究員)

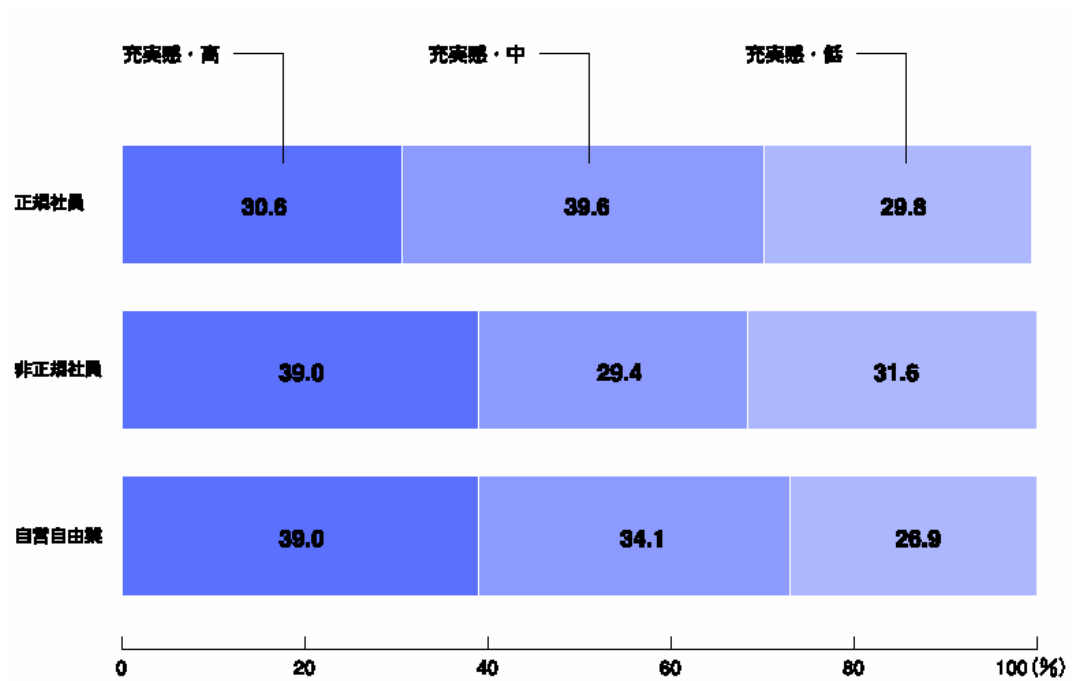
5. 調査結果概要

(1)「自分の個性や能力に合った仕事だと思う」「仕事が楽しい」「仕事にやりがいを感じる」のように仕事に対して肯定的に感じている人は就業形態によらず5割を超えている。また、充実感をもって仕事に取り組んでいる若者は、就業形態によらずほぼ一定割合ずつ存在している。

仕事をしていて感じること



仕事の充実感（就業形態別）

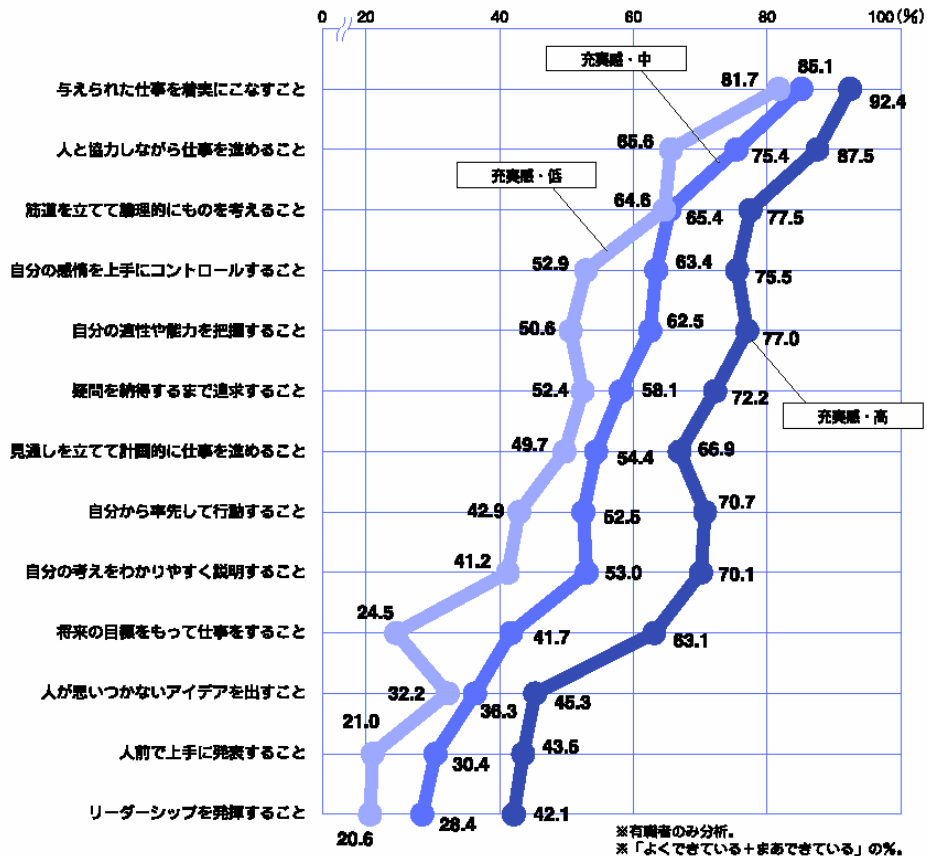


有職者のみ分析。

仕事の充実感...「仕事をしていて感じることをたずねた9項目より算出。「仕事量が多くて大変だ」「仕事をやめたいと思う」「職場の人間関係がわずらわしい」の3項目については「1.とてもそう」: 1点~「4.ぜんぜんそうでない」: 4点とし、それ以外の「仕事にやりがいを感じる」の項目については「1.とてもそう」: 4点~「4.ぜんぜんそうでない」: 1点としてすべてを合計し、ほぼ3等分になるように充実感・高、中、低を設定した。

(2) 充実感が高いほど、仕事における自分の態度・能力に自信をもっている。
 「将来の目標を持って仕事をしていること」ができていないかという点に大きな差が出ている。

ふだんの仕事のなかでできていること（仕事の充実感レベル別）



「仕事の充実感」と関連している「ふだんの仕事のなかでできていること」のまとめ

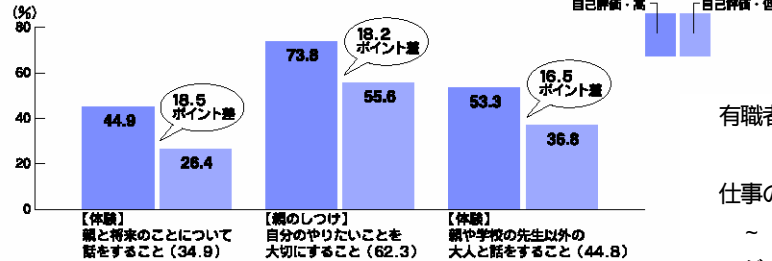
仕事の充実感レベル	← 充実感・低 充実感・中 充実感・高 →
すべての充実感レベルで差がついている態度・能力項目	① 将来の目標をもって仕事をする事（目標設定） ② 自分の考えをわかりやすく説明すること（表現）
充実感・低～中で差がついている態度・能力項目	③ 自分の適性や能力を把握すること（自己理解） ④ 自分の感情を上手にコントロールすること（自己制御）
充実感・中～高で差がついている態度・能力項目	⑤ 自分から率先して行動すること（自主性）

前掲図表において、充実度・低～中の差、充実度・中～高の差が相対的に大きいものを基準とし、整理した。

(3) 仕事における自分の態度・能力への自信の有無は、子ども時代の体験や親のかかわりと関連がある。いずれの態度・能力においても自己評価が高い人は、子どもの頃の体験として「親や学校の先生以外の親と話をすること」があったと回答している。

子ども時代の体験との関係（仕事における態度・能力の自己評価別）

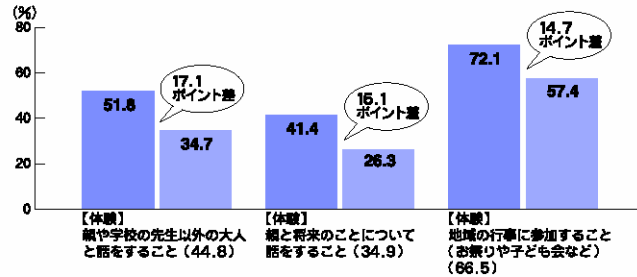
①将来の目標をもって仕事をする（目標設定）の自己評価別



有職者のみ分析。

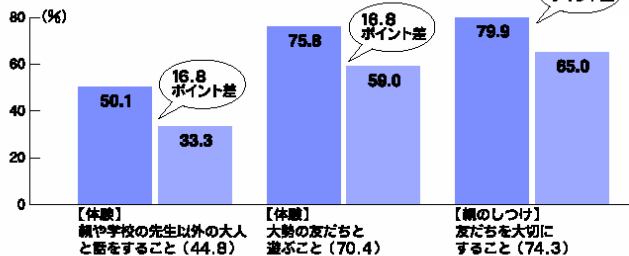
仕事の充実感と関係している態度・能力～それぞれについて、自己評価が高いグループ(よくできている+まあできている)と低いグループ(あまりできていない+ぜんぜんできていない)に分け、子ども時代の【体験】【親の様子】【親のしつけ】の評価のうちとくに大きな差があった上位3項目を示した。

②自分の考えをわかりやすく説明すること（表現）の自己評価別



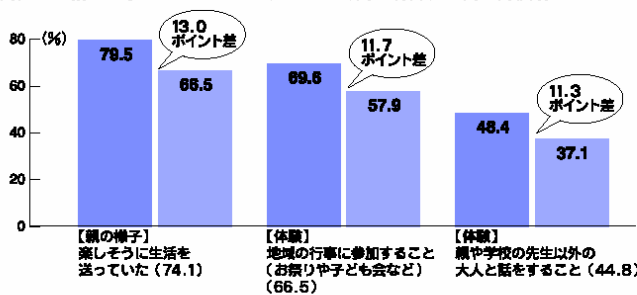
【体験】:「よくあった+ときどきあった」の%、【親の様子】:「とてもそう+まあそう」の%、【親のしつけ】:「とても重視していた+まあ重視していた」の%。

③自分の適性や能力を把握すること（自己理解）の自己評価別

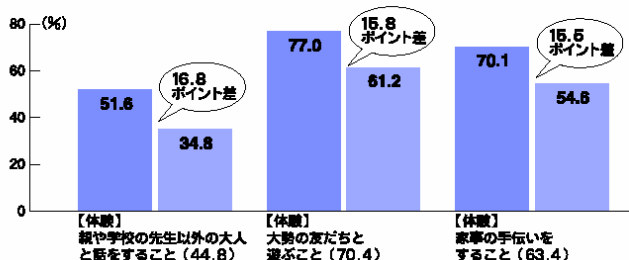


()内は全体の%。

④自分の感情を上手にコントロールすること（自己制御）の自己評価別



⑤自分から率先して行動すること（自主性）の自己評価別



ご参考

【 Benesse教育研究開発センターの活動 / Benesse教育情報サイトでの情報提供について 】

Benesse教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。

* 「若者の仕事生活実態調査」の詳細についてもこちらのサイトでご確認いただけます。

「Benesse教育情報サイト」(<http://benesse.jp/>)

ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。